

『ぼくらはいけの カエル』

まつおか たつひで 作 ほるぷ出版



まだかじかむような寒さの日でも、池の中にカエルの卵が産みつけられているのを見ると、「春がやってきた！」と心がポッと温まります。ふだんは見過ごしがちなカエル

ですが、私たちのすぐそばにいて、季節を感じさせてくれますね。

「ぼくらはいけのカエル」は、著者・まつおかたつひでさんのアトリエの近くにあるため池に住むカエルたちが主人公。小さな池にもかかわらず、7種類ものカエルが住んでいるんです！ モリアオガエル、トノサマガエル、ツチガエル、アカガエル、ウシガエル、アマガエル、シュレーゲルアオガエル・・・フー・・・名前を覚えるだけでも大変そ

う！ でも、どのカエルも個性的で、鳴き声もそれぞれ違いますよ。

お腹がすくと、長い舌を伸ばして餌をゲット。スイスイと泳いだり、木に登ったり、みんな元気、元気。モリアオガエルは木の上に卵を産みます。ほかのカエルも、ひも状の寒天の中に卵を産み付けたり、水草に固めて産み付けたり。卵を見ると何ガエルかわかるようですね。

さあ、オタマジャクシが生まれました！ でも池の中には敵がいっぱい。敵が攻めてくると、小さなオタマジャクシたちは集まってお団子みたいなかたまりになります。大きないきものに見せかけて、防衛しているのでしょう。無事育ったオタマジャクシは、やがて手足が生えて、カエルになります。

そんな生きもののドラマが、私たちのすぐ近くの池でも起きていることを、この絵本は教えてくれました。

(小川)